

平成26年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

会議録(認知症対策・権利擁護に関する会議)

1 開催日時

平成26年6月16日(月) 18:30~20:00

2 開催場所

北九州市役所 8階 82会議室

3 出席者等

(1) 構成員

井田構成員(代表)、伊藤構成員(副代表)、猪熊構成員、緒方構成員、小鉢構成員、清水構成員、白水構成員、田代構成員、長森構成員、福嶋構成員

※欠席者 山崎構成員

(2) 事務局

保健医療行政担当理事、地域支援部長 他

4 会議内容

- (1) 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議の運営について
- (2) 次期高齢者支援計画について
- (3) 事業別実施状況・課題について
- (4) 北九州市オレンジ会議の開催について

5 会議経過及び発言内容

(1) 代表、副代表の選任について

構成員：この会議は認知症対策・権利擁護に関する会議であるので、医師会の前担当理事であり、また、認知症疾患医療センターのセンター長でもある井田先生が適任であり、お願いしたい。

井田構成員：了解した。副代表には昨年まで代表を務めていただいていた伊藤先生をお願いしたい。

構成員：異議なし。

(2) 次期高齢者支援計画について

【資料「次期高齢者支援計画の策定について」】

【資料「次期北九州市高齢者支援計画 策定スケジュール(案)」】

【資料「平成25年度 北九州市高齢者等実態調査(要約)」】

【資料「北九州市日常圏域ニーズ調査 調査結果(要約)」】

【資料「次期北九州市高齢者支援計画の策定について(A3)」】

【資料「計画の体系図(A3)」】

構成員：高齢者だけの世帯や老老介護の数や状況が提示された資料ではわからない。

地域包括ケア推進担当課長：介護している方の年齢を聞いている項目（問40）と介護者が同居かを聞いている項目（問41）から、在宅高齢者の2割の方が高齢者の介護をしており、要介護認定者の数と照らし合わせて、市内おおよそ7千人の方が高齢者の介護を受けている方ではないかと、実態調査から推計している。

構成員：在宅高齢者の回答率は半分で、むしろそういった状況の方から回収できていないのではないかと考えられるが。

地域包括ケア推進担当課長：一般高齢者と在宅高齢者の回収率の差を考えず、大まかに見込んだおおよその推計である。

構成員：状況が悪い方からの回答が少ない可能性があるのも、そこをどこまで反映させることができるのかが今後の課題であると考えます。

計画調整担当課長：大まかなところでの課題設定をしているが、次回の分野別会議では、分野別に課題を詳細に設定し、その課題を設定した根拠となるようなデータを示したい。

構成員：権利擁護の分野については資料が少ない。

地域支援部長：今日お示ししている実態調査の資料は、全体感を理解していただくために抜粋したものを使っており、計画全体をこうすることで作っていくとご理解いただき、認知症・権利擁護に関するところについては、今後もっと詳しいデータを抽出したものを提示したい。

（3）事業別実施状況・課題について

【資料「認知症高齢者の現状（平成22年）」】

【資料「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」】

【資料「総合的な認知症施策の推進」】

【資料「第2章 調査結果の概要（「認知症に関する意識及び実態調査」より抜粋）」】

【資料「第三次北九州市高齢者支援計画（認知症対策・権利擁護）における保健福祉関連事業の実施状況一覧（A3）」】

構成員：薬剤師会としては、残薬管理の徹底や、認知症サポーター養成講座の受講等を通して、認知症の早期発見に役立ちたいと考え、取組みをすすめている。

構成員：多くの高齢者は身体疾患をもっており、かかりつけ医に通っているが、当然、薬の管理やお金の支払いがうまくできないという方が多くおられるので、かかりつけ医と調剤薬局が連携をとって、管理をしっかりとっていくと認知症の早期発見につながる。

認知症対策室長：認知症ハンドブック作成の際、意見をいただく等と協力してもらっており、今後ともご協力願いたい。

構成員：訪問型介護予防事業については、目標設定が訪問ということに限定しているのか。

健康づくり・介護予防担当課長：限定している。平成24年、25年と目標値を達成している。

この事業は、地域包括支援センターにいる介護予防訪問員という主に看護師の資格を持つものが実施している。平成24、25年度とかけて少しずつ配置の人数を増やしているが、平成26年度も同程度か少し伸びる程度の実績を予測している。

構成員：徘徊SOSネットワークの取組みをすすめる中で、GPSの有効性は明らかであると感じている。そこで、実際に徘徊により行方不明になったことのある認知症の方のご家族に利用をすすめたが断られた。GPSを小型化する等いろいろな改善策が考えられるが、命を守るためになんとかならないかと思う。

SOSネットワークへの登録や、地域での模擬訓練の実施などを強めていかないと、地域が理解、参加してこない実状がある。

認知症対策室長：GPSについては行政が利用料金の一部を負担している。利用者が増えないの

はお金の問題なのか持たせる問題なのか難しいところ。他政令市と比べると北九州市はトップグループではあるが、GPSをどうやって普及させていくかは引き続きいろいろな意見をいただきながら進めていきたい。

構成員：こういったサービスがあることをかかりつけ医は知っているのか。

認知症対策室長：GPSを含め、徘徊対応をPRするための印刷物を作成して、ケアマネに配布している。引き続き周知に努めたい。

構成員：家族の理解が進むと普及するのではないか。

認知症対策室長：GPSがどういったものか知ってもらうため、区役所の窓口にサンプルを置くことなどを検討したい。

構成員：高齢者のための脳の健康教室について、予防のための事業だと思うが実績が少ない。また、実態調査の結果を考慮すると目標値も低いと思う。

認知症対策室長：認知症を予防するため、脳を鍛えることは重要だと考えており、例えば他都市では、公文式を利用している所もあり、第三次高齢者支援計画で新規事業としてあげていたが、特定の業者を使うのが妥当かどうかといった問題などがあり事業化が難しい。

平成25年度実績の8名というのは、八幡西区の地域包括が対象者をピックアップして、その方たちに脳を鍛えるためのドリルなどをしていただいたものである。

構成員：認知症問題は予防が重要であると考え。予防の観点でもっと力を入れて欲しい。

認知症対策室長：保健福祉局内で、生活習慣病の予防などとも連携して、取組みをすすめていきたい。

(4) 北九州市オレンジ会議の開催について

【資料「認知症関連検討会議体と計画の位置づけ イメージ(A3)」】

構成員：徘徊高齢者は住宅街は比較的探しやすいが、密集地、デパートなどは探しにくい。スーパーやコンビニなど小売業の方に参加していただくと良いのではないか。

認知症対策室長：どういう基準で選ぶのかという問題と、同じような見守りからの視点で、いのちをつなぐネットワーク推進課が運営している会議があり、そちらとの役割分担という点を踏まえて検討したい。

構成員：小学生など、教育関係への啓発が重要だと考える。

認知症対策室長：小倉北区の今町校区で、地域の方と小学校が一体になった認知症サポーター養成講座を実施したりと新たな取組みもあるが、現在、小中学校を対象とした取組みとしては、受講者数は減少している。

教育関係については、北九州市オレンジ会議のメンバー選定とあわせて、啓発の取組みについても検討をすすめる。

構成員：配食サービスの事業者、セコム、アルソックなどの警備会社はどうか。

認知症対策室長：いのちネット会議、見守りの会議のメンバーになっているケースもあるので、役割分担の面で検討させて欲しい。

代表：北九州市オレンジ会議については、警察や金融機関あるいは交通機関など認知症対策に関係のある外部の関係者を招致したいと考えている。具体的な人選については事務局と相談してすすめていくことをご了解いただきたい。